

【国語－１】

実践事例：小学校３年生 ／実施機関：滋賀県教育委員会

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・ 一斉指導での指示や説明の理解
- ・ 学習課題への集中力の持続
- ・ 板書の書き写し
- ・ 漢字の正しい読み書き
- ・ 文章を正しく読むこと
- ・ 文章の内容理解

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・ 一斉指導では、聞いていても理解できていないことがあり、聞き返すことが多い。
- ・ 会話では、自分の思いのままに話してしまい、相手にうまく伝わりにくい。聞き返すと、「もういい。」とあきらめてしまうことがある。発音が不明瞭なところもある。
- ・ 課題に取り組んでいるとき、途中で手が止まりぼんやりとしていることがある。
- ・ 漢字学習では、なんとなく形は合っているが細かいところまで正確に書くことは難しい。
- ・ 文章を正しく読むことが難しい。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

平成30年6月～7月

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・ 発達検査の結果（発達支援センター心理職から、学校・保護者による聞き取り）
- ・ 医療機関からの助言（学校・保護者による聞き取り）
- ・ 学習の状況及び児童観察（学級担任）
- ・ 教科教育スーパーバイザーによる児童観察およびアドバイス
- ・ 視覚機能チェックリスト（学級担任）

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・集団の中で、言葉の指示や注意の理解が難しい。
- ・板書を正しく写すことが難しい。
- ・漢字の習得に課題がある。
- ・文章の文末等を自分で勝手に読んでしまう。
- ・単語や文節の区切りを誤って読んでしまう。
- ・ことばや文章の意味理解が難しい。
- ・文章内容を頭の中でイメージしにくい。

(2) つまずいている背景・原因

- ・語彙が少なく、言葉そのものがわかりにくい。
- ・語彙・概念の弱さから、文の意味も理解しづらい。
- ・視知覚認知や短期記憶の力が弱い。言葉だけの説明では理解しづらく、説明や指示が頭に入らない。
- ・集中力に弱さがある。
- ・眼球運動が十分でない。文字をたどることが苦手で、動くものを目で追うことにも困難さが見られる。
- ・言葉を文節に分けることに困難さがあり、拾い読みや、自分の知っている言葉に読み替える傾向がある。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

ア. 全体指導の中で

(ア) 学習の見通しをもたせる。

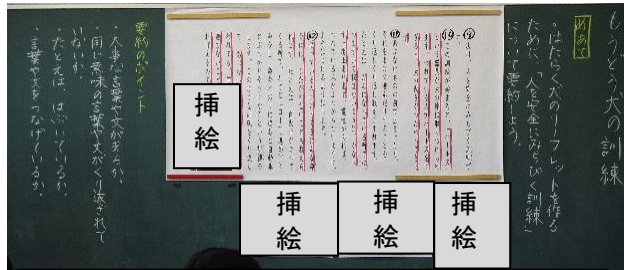
- ・導入で本時のめあてやポイント、学習内容、学習の流れ、活動手順等を視覚的に提示し、見通しを持って学習に臨めるようにした。
- ・授業 1 時間の流れだけでなく、単元の学習計画も示し、学習内容全体をイメージできるようにした。さらに主体的な学習参加へつなげるよう、児童が学習計画を作成することにした。
- ・「①読む」「②めあてをノートに書く」「③話し合う」「④まとめる」など、授業の大まかな流れを作り展開することで、安心して学習に向かえるようにした。

(イ) 視覚支援

- ・理解を助ける支援として、絵や写真、文字カードなどにより視覚的に情報を補った。
- ・内容を理解しやすくするため、板書（全体説明）とワークシート（個別学習）を結びつけた。

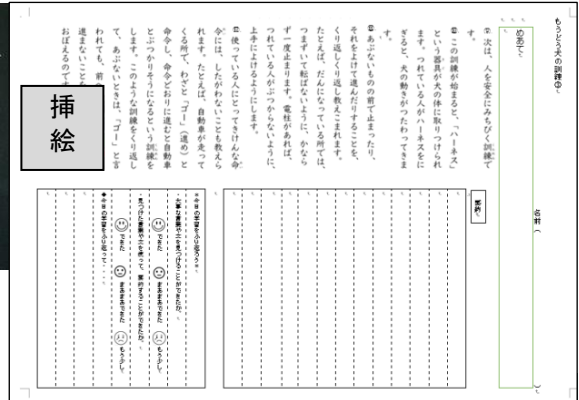
| 時期 | 学習内容 |
|----|--|
| ① | 本文を読む。 「本文の意味を知る。」 「リーフレットのめあてを見て、これからの学習の見通しを持つ。」 |
| ② | 「既習①～③」 「どういう犬がいるのか知る。」 「もうどう犬について要約する。」 |
| ③ | 「既習①～③」 「おしいの訓練」人間のいうこととしたがう訓練」について要約する。」 |
| ④ | 「既習①～③」 「つぎの訓練」人を安全にみらびく訓練」について要約する。」 |
| ⑤ | 「既習①～③」 「もうどう犬にふさわしい心がまえ」について要約する。」 「既習①」 「もうどう犬をつかう人との訓練」について要約する。」 「既習③」 「もうどう犬としてのくらし」について要約する。」 |
| ⑥ | 「リーフレット作り①」 「前時までに学習した要約から、どのようなリーフレットのこうせいにするか考える。」 |
| ⑦ | 「リーフレット作り②」 「演習①」 |
| ⑧ | 「リーフレット作り③」 「演習②」 |
| ⑨ | 「はたらく犬について、本などで調べる。」 |
| ⑩ | 「はたらく犬について調べたことを要約する。」 |
| ⑪ | 「はたらく犬について要約したことをリーフレットに書き写す。」 「リーフレットのかんせい。」 |
| ⑫ | 「仕上げたリーフレットをグループで読み合う。」 |

児童が作成した学習計画



板書内容と同様の資料を手元のプリントで見られるようにし、理解の手助けとする。

- ・集中力が途切れた後も学習に戻れるよう、今学習している内容に矢印マーク「今ココ」をつけ、自分で確認できるようにした。



指定校で統一して活用している「今ココ」カード

(ウ) 授業構成・学習形態の工夫

- ・聞く活動、書く活動、読む活動等、多様な学習活動を取り入れる、1つの学習活動を10～15分ごとに短く区切るなど、集中して学習に取り組めるよう、動きのある授業構成に配慮した。
- ・ペア学習やグループによる話し合い活動等を取り入れる等、学習形態にも変化を持たせた。ペア学習では、書いたものをペアで確かめ合ったり、アドバイスし合ったりする等、互いに認め合える安心した場となるようにした。

(エ) 自己選択の場の設定

- ・プリントは、マス目か縦か横の補助線があるものを選択できるようにすることで、書くことへの抵抗を軽減した。

(オ) 教室環境の構造化

- ・学習に集中できるよう、黒板と黒板の周囲に余計なものを書いたり貼ったりしないようにし、すっきりした環境にした。
- ・前面には学習に必要なものだけを掲示し、廊下側に既習の学習の足あとを残すことで、学習を振り返ることができるようにした。

(カ) 「聞く」ことへの支援

- ・指示は、具体的な言葉で、短くはっきりとポイントを伝えるようにした。
- ・教師の範読は、聞き取りやすいよう、分かち書きを意識して行った。

(キ) 「読む」ことへの支援

- ・学習の基盤となる力を育成するため、学級全体で「矢印体操」や目の体操（眼球トレーニング）を行った。
- ・文章中の大事な言葉に線を引き、内容について説明を加え、理解を促した。
- ・苦手な漢字学習について、読み優先の学習「音読名人」に取り組むことで、まず「読む」ことから抵抗を減らし、繰り返し読むことで自信をつけるようにした。

イ. 個への指導

(ア) 机間指導による個別の支援

- ・学習に取り組みやすくなるよう、教師が意図的に座席の配置やグループ編成を行った。

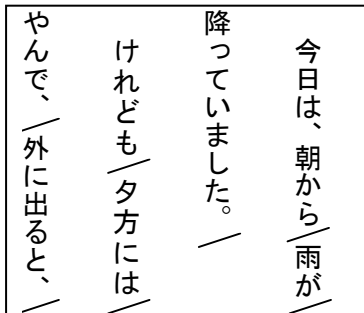
- ・教師が話す前に、「〇〇さん」と対象児童の名前を呼んだり肩に手を触れたりするなどの注意喚起を行った。その後も個別に励まし、承認することで集中力を高めた。
- ・全体指示を聞き漏らしたときには、個別にそばで言葉かけをし、理解を促した。

(イ) 理解を助ける支援

- ・安心して学習に取り組むことができるよう、話の内容やポイントが理解できているかを個別に確認した。
- ・主体的に学習に参加できるように、理解の程度に合わせたヒントカードを用意し、子供自身が選択できる場面を設定した。
- ・必要に応じて、活動することや説明の内容をまとめたメモを渡し、手元で学習内容を確かめられるようにした。

(ウ) 読むことへの支援

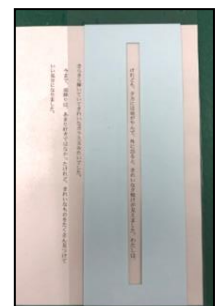
- ・読みづらい漢字には読み仮名をつけ、読むことへの抵抗を軽減した。
- ・文節ごとにスラッシュを入れる、指や下敷き・定規を当てて少しずつずらして読む、1行の幅で窓を開けた「スリット」(*)を用意し、他の行を隠して、読む行のみが見えるようにして読む等、読んでいる箇所を意識し正しく読めるよう工夫をした。



①最初は先生と一緒にスラッシュを入れて読む。



②自分で指でなぞりながら読む。



*色画用紙で作成したスリット

- ・全体で音読するときは、音読する部分を事前に知らせておくことで安心して発表することができた。

(エ) 書きの支援

- ・取り組みやすさと意欲を高めるため、板書を写す量を軽減する等、やり遂げられる量を提示した。
- ・板書を正しく写すため、手元で見られるお手本シートを用意する。

(ii) 個別指導について (取り出し指導、通級による指導との連携など)

通級指導教室における指導 (週1回、1時間)

本取組の成果に繋がったと考えられる通級による指導の内容

ア. 本時の流れを確認し、1時間の見通しを持たせる。

イ. お話タイム 何が だれが どうした

- ・伝えたいことを相手にうまく伝えられるよう、キーワードを意識して話をしたり言葉でやりとりしたりしながら会話を広げていく。

ウ. 集中トレーニング

- ・目からの情報は入りやすいが、目に入ったものに気を取られ、注意・集中の持続は難しい。聞く力を伸ばすために、聞いて覚えて質問に答えるトレーニングで意識して聞く学習活動を設定した。

エ. 目のトレーニング

- ・書字の課題を改善するために眼球運動を滑らかにするトレーニングを行う。

オ. 文字（漢字）の形を整えて書く

- ・字形が整わず、書字に課題が見られるため、タブレットを活用し、漢字九九を唱えながら視覚的に大きく文字を捉えながら書くなど、多感覚での書字学習を実施。

カ. 構音指導

キ. 運動タイム（トランポリン）

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・1時間の授業の流れを明示したことで、本児は「今は何をするときなのか」を捉え、見通しを持って学習に臨むことができた。
- ・挿絵を活用して読み進めたことで、物語の状況がイメージしやすく、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・授業をパターン化することで、少しずつ学習の流れに慣れ、スムーズに活動できるようになった。
- ・ペア学習を取り入れることで、安心して学習に取り組むことができた。ペアで確認し合うことで、自信を持って発表できるようになった。
- ・マス目や補助線のあるプリントを使用することで、書く位置や量がはっきりし、取り組みにくさが軽減された。
- ・環境を構造化することで、自分でその時に必要な情報を探して活用できるようになった。
- ・目の体操（眼球トレーニング）をすることで、集中が途切れかけたときも継続して学習できるようになった。
- ・座席の配置に配慮したことで、グループの話し合いにあまり参加できなかった児童が、徐々に自分から話を聞くようになり、学習に関する考えをもてるようになった。また、学習中に子供同士で注意をし合ったり、お互いに教え合ったりする場面が見られ、配慮を要する児童にとって、声をかけてくれる友だちが近くにいることは大変良い環境となった。子供同士で教え合うことで、前向きな気持ちで学習に向かうことができ、より理解が深まった。
- ・教師が話す前に対象児童に声をかけ、注意喚起することで聞くときの集中が高まった。
- ・必要に応じてヒントカードを活用することで、書き方がわからない時もあきらめずに取り組むことができた。
- ・スリットの活用や、文節ごとにスラッシュを入れたり、指や定規を利用したりすることで、文章を目で追いやすくなり、読みにくさの軽減につながった。また、「読む」活動に抵抗がなくなってきた。
- ・お手本シートを活用することで、視写に取り組みやすくなった。

【国語－２】

実践事例：中学校２年生 ／実施機関：滋賀県教育委員会

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・ 一斉指導での指示や説明の理解
- ・ 学習課題への集中力の持続
- ・ 思いを整理し、わかりやすく話したり文章で書いたりして表現すること
- ・ 漢字の正しい読み書き
- ・ 文章の読解

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・ 文字から音への変換に時間が掛かったりうまくできなかつたりする等、凹みが見られる。
・ 書くことが苦手で、主述の整わない文を書くことが多く、また誤字や脱字も目立つ。
・ 学習内容の理解に難しさがある。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

平成 30 年 5 月～7 月初旬

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・ 個別の指導計画・教育支援計画による確認（学級担任・特別支援教育コーディネーター）
- ・ 学級担任との面談（教科教育スーパーバイザー）
- ・ 通級指導教室での観察（教科教育スーパーバイザー）
- ・ ノート、ワークプリント、テスト、学習成果物の点検（学級担任・教科教育スーパーバイザー）
- ・ 授業観察（教科教育スーパーバイザー）

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・ 漢字を独特の筆順で乱雑に書き、細かな部分に間違いが多い。
- ・ 主述の整わない文を書くことが多く、誤字や脱字が目立つ。

- ・初めて読む時には少し時間がかかる。また、誤った読み方をしてしまうことが多い。
- ・筋道を立てて自分の考えや意見を整理し書くことが苦手である。

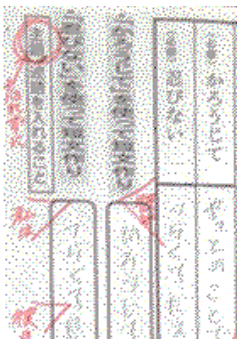
(2) つまずいている背景・原因

- ・文字から音への変換ループに凹みが見られることから学習障害が疑われる。
- ・細部まで注意が払えず、また、見直すことを避ける傾向がある。
- ・知的理解に難がみられ、基礎学力の定着不足がある。
- ・活字慣れしておらず、獲得している語彙が少ない。

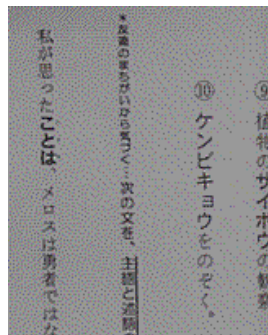
(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

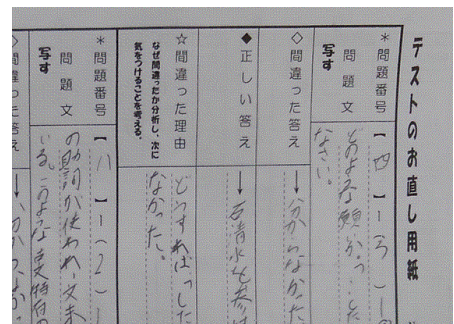
- ・1時間の国語の授業に「文章を書く」機会とその時間確保に努めた。その際には、「書き方や文例を示す支援」を実施した。
- ・毎時間の授業の振り返りを文で表したり、主語・述語の関係が整っていない文を修正する問題を漢字小テストの欄外に設定したり、語句調べの後にも対象の語句を活用した文作りをするなど、書く活動とその添削指導を継続的に行った。
- ・文章を書かす際にはマス目や罫線を引いたものを用意し、字の大きさや字の並びができる限り揃うことを心がけた。
- ・毎時間の「今日の一文」では文法事項の習得を図りつつ、繰り返し文の構造を学習させた。
- ・毎時間「漢字小テスト」を実施し、またその確認テストを定期的実施することで、漢字の読み書きの定着を図った。
- ・国語科の家庭での課題学習として、月に1～2回の割合で新聞記事を踏まえた作文に継続的に取り組んだ。
- ・鑑賞文を書くときに、イメージを持ちやすいように手がかりとなる写真や絵を用意した。
- ・鑑賞文など出来上がった文章は、本人だけでなく生徒相互で見直せるように、文体の統一や主述関係などの点検項目を入れて評価を行わせ、推敲の習慣化を目指した。
- ・毎時間の授業のはじめに名文や詩を復唱する暗唱を行い、言葉の音感や文章のリズム感を培えるようにした。



語句調べで、調べた言葉を使い一文を書かせる



主述関係が整っていない問題を漢字小テストの欄外に加え、修正させる



定期テストでの文章題の間違いを確認する見直し作業

【算数】

実践事例：小学校4年生 / 実施機関：滋賀県教育委員会

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・ 一斉指導での指示や説明の理解
- ・ 学習課題への集中力の持続
- ・ 板書の書き写し
- ・ 自分の考えをもち、文や言葉で表現すること
- ・ 文章題の意味理解
- ・ 計算のしくみの理解

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
 その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
 コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
 落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
 学習（計算、推論等）すること その他

- ・ 発達検査の結果から、ワーキングメモリーが極端に弱いことが明らかになった。
- ・ 学習したことがなかなか積み上がっていかないため、「自分はできない」「だめだ」という思いが強く、何事にも前向きに取り組めない。
- ・ 一斉指導で話を聞いたり、課題に取り組んだりすることが難しい。
- ・ 書いたり考えたりするなど集中して取り組む課題を避けようとし、時間をかけても取り組めないことが多い。
- ・ グループ学習やルールのあるゲームで自分の思い通りに進まないとやる気をなくしてしまう。
- ・ 自分の思いや考えをうまく伝えることが難しい。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

平成30年5月～平成31年2月

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・ 発達検査の結果（発達支援センター心理職から、学校・保護者による聞き取り）
- ・ 学習の状況及び児童観察（学級担任）

- ・学級担任による学習指導の状況および児童観察
- ・教科教育スーパーバイザーによる児童観察およびアドバイス

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・一斉指導では指示が入りにくい。
- ・集中して課題に取り組むことができない。
- ・計算の仕組みを理解することが苦手。
- ・文章題の意味を理解して解決することが苦手。
- ・板書を書き写したり、自分の考えを書いたりすることが苦手。
- ・嫌なこと、できそうにないことから逃げる傾向がある。

*たとえば、わり算の学習の場合

- ・仮商のを見つけ方がわからない。(見当・九九の活用)
- ・筆算のアルゴリズムを理解することが難しい。

(「たてる→かける→ひく→おろす」の操作の手順、位取り、数値を書く位置など)

(2) つまずいている背景・原因

- ・ワーキングメモリーに弱さがあるため、指示内容の理解や文章の読解がスムーズにできない。
- ・視空間認知の弱さがある。処理速度にも影響して文字を書き進めることが難しい。
- ・早合点し、失敗をくり返してしまうため、自己肯定感が低く、「どうせ自分はできない」とすぐにやる気をなくしてしまう。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

ア. 多様でメリハリのある授業展開

(ア) ユニバーサルデザインを意識した授業づくり

- ・授業の1時間の流れを提示し、「ここまでやったら〇〇」、「この部分をしたら終わり」などスモールステップで学習を進めた。
- ・学習内容が捉えられるように、具体物を用意したり、操作活動を取り入れたりして、イメージしやすくした。
- ・言葉による聴覚情報の他、視覚支援を併用する。
- ・1時間の学習内容がわかるように、「見やすい板書」を心がけた。黒板に児童の考えを図で示し、考え方を記入させる等、考えのまとめ方や整理の仕方を視覚的に捉え、動きのある授業づくりを行った。
- ・ゆっくり、はっきりした口調で指示をしたり、話しかけたりした。



児童が考えを黒板に書く、図で示すなど「動きのある授業」づくり

(イ) 導入の工夫

- ・生活に根ざした問題文を提示するなど、興味が持てそうな課題提示をする。

「計算のやくそくを調べよう」の単元では、おかし屋さんで買い物に行くことを想定し、出したお金と代金、おつりの関係を考える。児童が経験のある事柄であり、興味のわく身近な問題から導入を行った。

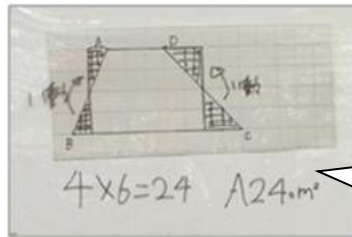


(ウ) グループ活動の計画的な導入

- ・グループ発表の際に、発表用ホワイトボードを活用して、役割分担（書く、発表する等）をすることで活躍の場を設け、活動に参加しやすくした。ホワイトボードの上に透明のビニルシートを付け、ホワイトボードとビニルシートの間にプリントを挟むことで、図を写す必要をなくしたり、書き直しも容易にしたりすることで、取り組みにくさを軽減した。

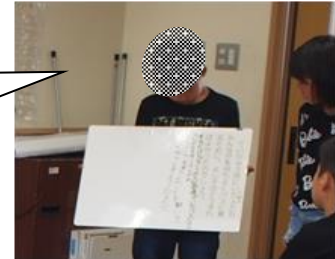


グループで相談し、意見をまとめる。



意見等を整理して、発表する。

図を利用して自分の考えを記入する。



イ. 書く力を高める工夫

(ア) 板書の工夫

ポイントを枠で囲むなどパターン化することで写す場所を理解しやすくした。

(めあて…青で囲む、まとめ…赤で囲む ← 全クラスで共通実践)

(イ) プリントの自己選択

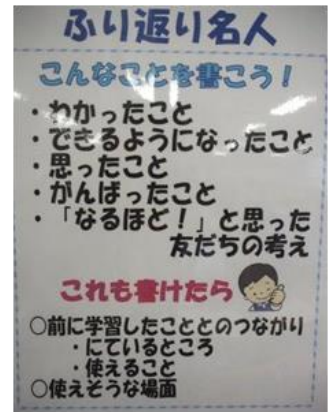
書き込みができるプリントや書きやすい大きさのマスを選択できるように準備し、安心して取り組めるようにした。

(ウ) 振り返りの視点を提示

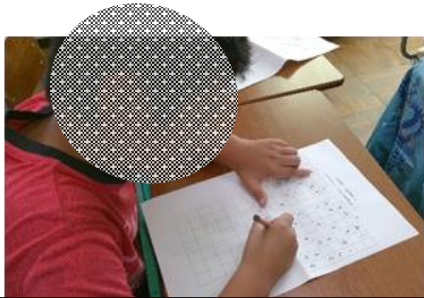
学習のまとめをする時、何を書けばいいのかわからないように、振り返りの視点をわかりやすくする提示をした。(全クラスで共通実践)

(エ) 「書き」のトレーニング

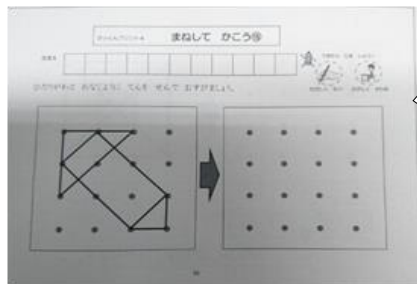
短時間でできるトレーニングとして「かっくんプリント」や「マスコピー」を活用し、左右を見ることや板書を写すことが苦手な子供の目の動きの改善に努めた。ゲーム感覚で楽しく取り組み、どの児童も主体的に学習する中で「正しく書く力」を高めることができた。



ふり回りのポイントを掲示 (指定校で統一)



主体的にトレーニングに取り組む児童。



「形を捉える力」や「空間を把握する力」をつけるために「かっくんプリント」「マスコピー」に取り組む。

参考文献

- ・滋賀県総合教育センター、特別支援教育に関する研究「特別支援教育の知恵袋（書字編）平成 28 年度改訂版」、平成 28 年度（2016 年度）研究成果物
- ・大阪医科大学LDセンター アットスクール 教育研究部共同開発「トレーニング BOOK マスコピー」、株式会社スプリングス、平成 22 年（2010 年）1 月

ウ. 理解を助ける手立て

(ア) 子供同士で

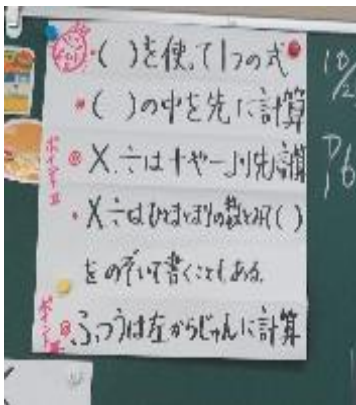
- ・友だちが声かけをするなど、子供同士のつながりの場を意図的に設定することで、児童の注意喚起や意欲の向上を目指した。



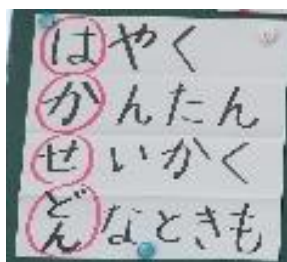
ペア学習

(イ) 学習の振り返りができる環境

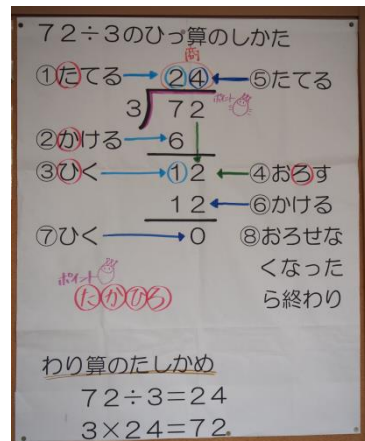
- ・学習のポイントや、前時までの学習のあしあとを掲示しておき、思い出せるようにする。また、大事なことはキーワードで提示し、覚えやすくした。わり算の筆算はアルゴリズムを掲示し、計算の手順を振り返ることができるようにした。また、「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の手順を覚えやすいようにキーワードで復唱した。



計算のやくそくを掲示



算数で大事なポイントをキーワード「はかせどん」で示す。



わり算の筆算のアルゴリズムを掲示する。

エ. 個への支援

(ア) 量の軽減

- ・個に応じて計算問題などの課題の分量を軽減することで、集中力の持続につなげた。
- ・板書を写す際、「囲みの部分だけ書けばいい」など、書く量を軽減するようにした。

(イ) 視覚支援

- ・正しく板書が写せるように、必要に応じてお手本シート（教師の板書計画）を個別に渡すことにした。

(ウ) 理解を助ける支援

- ・仮商が見つけれない時、九九ができないことが原因の場合は、九九表を渡し、九九表を見ながら「 $65 \div 7$ 」であれば7の段を見て「65」に近い数を見つけることで仮商を立て、計算ができるようにした。本時の学習のねらいに迫ることに重点を置いた支援を行った。

(エ) 効果的な励ましと支援

- ・机間指導をこまめにし、つまずきの確認や励ましの声かけをすることで、安心して書く活動に取り組めるようにした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

ワーキングメモリーが極端に低いことから、これまでの学習の積み上げができていないことが大きな課題である。2学期から、別室を活用し、国語と算数の指導を個別に行った。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・わかりやすい指示や視覚支援により、集中して学習できる時間が増えてきた。発表用ホワイトボードの活用を好み、意欲的に学習に向かう姿が見られた。
- ・グループ活動やペア学習を意図的に取り入れ、役割を明確にすることにより、自分のすべきことがわかり見通しを持って学習に臨むことができた。その結果自己有用感や自信を高めることにもつながった。自信が持てるようになったことで、周りの友だちとも上手に関わることが多くなった。
- ・個別の支援を行うことにより、学習に少しずつ向かえるようになった。特に量の軽減や机間指導での励ましは有効であった。
- ・校内での通級で国語や算数の学習をスモールステップで進めることにより、達成感を味わい、学ぶ意欲を高めることができた。そのことで、在籍学級での学習に向かう姿勢も随分よくなってきている。